

# 次の新型インフルエンザ発生に備える!!

## —山梨県における取り組み—

### 井上 修

山梨大学医学部附属病院感染制御部副部長

### 窪川佳世

山梨大学医学部附属病院感染制御部感染管理認定副看護師長

### 三河貴裕

山梨県立中央病院総合診療科・感染症科副部長

### 今井秀人

山梨県小児科医会会長

### 隈部桂子

山梨県小児科医会理事

### 古屋好美

山梨県中北保健所所長

### 浅山光一

山梨県福祉保健部健康増進課感染症担当課長補佐

### 田辺正樹

三重大学医学部附属病院感染制御部部長(病院教授)

山梨県は県全体の総人口約83万の山里である。山梨県は東京都に隣接するため関東地方に分類されることが多いが、新宿から甲府までは約150 km程度離れており、県境は山間地帯であるためJR特急あずさに乗っても1時間半程度を要する。南に接する静岡県までは約100 km、現在建設が進められる中部横断自動車道が完成をみるまでの間は一般国道を利用して約2時間を要する。北に接するのは長野県で、山梨県と長野県を併せ甲信地方とも呼ばれる。長野県松本市へは中央自動車道、またはJR中央本線を利用して約1時間の旅となる。交通・物流はJR線や高速道によるところが大きく交通網が寸断された場合は容易に陸の孤島と化す地理的特徴を抱えている。山梨県の中心に位置する甲府盆地は四方を

取り囲むように、南に富士山、西に南アルプス、北に八ヶ岳、東に大菩薩嶺といった山々が連なっている。人口が集中し都市化が進む甲府盆地の中心部分と、農業や観光業が盛んではあるが人口密度は低い甲府盆地周辺・山間部に分けられる(図1)。公共交通は都市バスが主であるが本数は少なく、JR中央本線、JR身延線、富士急行線などの鉄道も一部地域では利用できるが、大都市ほどの利便性を望むことはできない。そのため大多数の家庭では自家用車を複数台所有し日々の移動に用いる。このように周囲の都道府県から時間的距離が離れ、病院への通院に利用できる公共交通が限られている山梨県で、新型インフルエンザの流行に対してわれわれがどのようにして準備を行っているのか、現状と課題などを

伝えたい。

## 1 山梨県における有事医療体制の現状

山梨県では地域保健医療計画に沿って県内を4つの2次医療圏に分けている。果樹栽培が盛んな峡東医療圏、富士川に沿った山間部が中心の峡南医療圏、富士山を有する富士・東部医療圏、そして都市部の中北医療圏である。中北医療圏は地理的に南アルプスから八ヶ岳にかけての山間部に広がる峡北エリアと甲府盆地の中北エリアに分けられ、山梨県人口の約4割が中北エリアの狭い範囲に集中している。山梨県には約60施設の病院と700施設の一般診療所があり、これは全国の平均的なレベルにあるが、医師数は人口10